

RooTS Vol.04

あの大鴉、さえも

作 竹内統一郎

上演台本 ノゾエ征爾

演出 小野寺修二



撮影:山崎崇治

1960~70年代に書かれた優れた日本の戯曲を、現代の気鋭の演出家に託す人気シリーズ「RooTS」。第4弾『あの大鴉、さえも』にも、豪華で心躍る面々が集まった。

時代とそぐわないように見える部分こそ豊か

1980年に発表された『あの大鴉、さえも』は、当時、秘法零番館という劇団を立ち上げた劇作家、竹内統一郎によって書かれた。竹内はこの作品で第25回岸田國士戯曲賞を受賞。三人の男性が巨大なガラスをある家に運ぼうとしているが、目の前にあるその家の玄関がどうしても見つからないという話だ。しかもガラスは存在しないという、いわば不条理劇。繰り返上演されてきたこの傑作の演出に白羽の矢が立ったのは、マイムを土台にしたフィジカルシアター系演出家として引っ張りだこの小野寺修二。

小野寺「お話をいただいた後、竹内さんとお会いしました。竹内さんは以前、僕がいた水と油というマイムカンパニーを覗きに来て、「好きにやりなよ」と。ひとつだけ言われたのが“この作品は、お客さんを笑わせないとダメだよ”でした。僕としては、当時の世相を表すせりふが多く、それをどこまで残すか悩んでいて、ご意見を聞きたいと思っていましたが(自作を語るのは)照れがあるのか、軽く流されました(笑)。そこは、上演台本を担当してくれるノゾエ(征爾)さんと相談しながら丁寧に考えていこうと思っています」ノゾエ「最初に読んだ時は、やはり時代が変わっていることもあってか、翻訳劇のような距離を感じました。それが、出演者の皆さんに本読みをしてもらったら、そのままでも充分おもしろかったんです。小野寺さんの希望で、ストーリーを要約したものをつくったんですけど、それだと本当に短い話で、つまり、一見無駄かもと思う部分、今の時代とそぐわないように見える部分に豊かなものがあつた。演劇って本来そういうのだったなと、この戯曲を通して改めて教わった気持ちです」

まだ演出の入らない本読みの時点で「充分おもしろかった」と言わしめた出演者こそ、今回の上演の大きな注目点だろう。本来は全員男性として書かれた役を、小林聡美、片桐はいり、藤田桃子という女性が演じるのだ。小野寺「元の戯曲が強いので、思い切った変化をつけたいとは思っていまし

たが“それが実現したら夢のようですね”と話していた顔ぶれが本当に揃って、自分でも驚いています。はいりさんは僕らの作品に何度も出てくれていて、今回も力を貸してもらえたらなと。聡美さんはダメもとでお声がけしたらOKをいただいた。藤田は、僕と同じ出自で俳優ではないから迷ったんですが、はいりさんも聡美さんも“違うカテゴリーの人が加わった方が、きっと新しい要素が生まれる”と言ってくださって」

男性言葉のせりふ、意外と違和感がなかった

出演のオファーを受けた理由は、3人もも自然体だ。片桐「単純に、おじさん役をやるのがおもしろそうだなと思ったんです。どちらかと言うと、自分より聡美さんのおじさん役が見たかったですけど(笑)」小林「でも、男性言葉のせりふも、言ってみるとそれほど違和感がないですよ。ただ、私はこれまであまり動く機会がなかったので、そこは大丈夫かしらと。はいりさんが小野寺さんの舞台に出ているのを、簡単そうに見えて大変なんだろうなと思いつつ、眩しく拝見していただけだったので」片桐「そこは藤田さんがリードしてくれるから大丈夫！」藤田「いやあ、私はまだ“人生にはこんな機会があるんだな”と思っているぐらい実感に伴ってなくて、おふたりの胸をお借りする気分です。でも、こういう部外者みたいな人間がぼんと入るのもアリなのかなと考えて、自分なりに何かを担えるといいなと思っています」

取材・文:徳永京子

9月30日(金)~10月20日(木) シアターイースト 詳細はP14へ

作:竹内統一郎
上演台本:ノゾエ征爾 演出:小野寺修二
出演:小林聡美/片桐はいり/藤田桃子

チケット発売:7月23日(土)

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)
東京都/アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)

SATOMI KOBAYASHI HAIRI KATAGIRI MOMOKO FUJITA



オックスフォード大学演劇協会(OUDS)来日公演「夏の夜の夢」(英語上演/日本語字幕付)

8月12日(金)~14日(日) シアターイースト

詳細はP12へ



現代の英国の若者が描く一夜の恋の大騒動

創設130年の歴史と伝統を誇るオックスフォード大学演劇協会(OUDS:Oxford University Dramatic Society)はシェイクスピア作品の原語上演が好評なイギリスの由緒正しい学生劇団であり、常に若い才能を育み続けています。映画『Mr.ピーン』のローワン・アトキンソンをはじめ、ヒュー・グラント、フェリシティ・ジョーンズなど、英国演劇・映画界を彩る数々のスターを輩出しています。

シェイクスピア没後400年という記念の今年、祝祭劇の最高傑作といわれる喜劇「夏の夜の夢」に挑みます。躍動感あふれるフレッシュな演技と本場の美しいクイーンズイングリッシュで見るものを夢の世界へと連れ出してくれることでしょう。終演後には、OUDSメンバーとの交流会「Meet&Greet」や「トークセッション」も開催。OUDSの学生たちとの交流を通してシェイクスピアの本場、英国文化にも触れてみてください。どうぞご期待ください。

OUDS 来日公演とは?

OUDS来日公演では、若い世代の国際交流事業として演劇を通じた国際交流が行われています。日本の学生もボランティアとして公演のサポートに関わり、OUDSの学生とともに公演を創り上げています。一つの公演制作を通し育まれる日英間のこの文化交流は、OUDS来日公演ならではのものとなっています。

作:ウィリアム・シェイクスピア 演出・出演:オックスフォード大学演劇協会(OUDS)

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)/豊島区

芸劇eyes 劇団子供巨人 チャンバラ音楽劇「幕末スープレックス」

9月17日(土)~25日(日) シアターイースト

詳細はP14へ



2012年初演より

幕末×生演奏で、明るく、賑々しく。

劇団に所属しない俳優が増え、劇団そのもののつながりも様変わりしている昨今、劇団らしい結束力と賑やかさで活動しているのが、劇団子供巨人だ。2005年に大阪で旗揚げ、2014年から東京に拠点を移して、現在は大阪と東京の2カ所で開催することを基本ベースにしているが、東京への移動も劇団員全員で引っ越し、現在も共同生活を送っている。バラバラに起きているいくつかの出来事がやがてひとつになる、物語の“うねり”と“収束”の快感が売りの作風も、劇団員ひとりひとりの個性、それが揃う呼吸があるからこそ、形になっていると言えるだろう。

『幕末スープレックス』は、そんな子供巨人の作品の中でも屈指の団体力と賑やかさを誇る。ペリー来航、桜田門外の変、鼠小僧、ええじゃないかなど、幕末を彩った歴史のかげら達が、6名のミュージシャンの生演奏に乗って、ごった煮のスペクタクルへと昇華する内容で、2012年の初演時には、関西で本当におもしろい舞台を選ぶ「ベストアクト」でグランプリを獲得した。作・演出の益山貴司、看板俳優の益山寛司の兄弟は、NODA・MAPのアンサンブル出演経験あり。シアターイーストを十分に活用してくれるだろう。

文:徳永京子

■作・演出 益山貴司

出演:キキ花香/億なつき/益山寛司/影山 徹/ミネユキ/山西竜矢/益山U☆G/古野陽大/うらじぬの/益山貴司(以上、劇団子供巨人)ほか 総勢31名
楽団:イガキアキコ(ヴァイオリン)/かんのとしこ(アコーディオン)/ワタンベ(ドラムス)/宮田あずみ(エレキベース)/中林キララ(ギター)/三原智行(トロンボーン)

主催:劇団子供巨人
提携:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

COMING UP NEXT 2016.10-12

演劇・ダンス ラインナップ

「かもめ」

10月29日(土)~11月13日(日) プレイハウス
作:アントン・チェホフ 翻訳・上演台本:木内宏昌 演出:熊林弘高
チケット発売:7月30日(土)

「三代目、りちゃあど」

11月26日(土)~12月4日(日) シアターウエスト
作:野田秀樹 演出:オン・ケンセン(シンガポール)
チケット発売:9月上旬

「ロミオとジュリエット」

12月14日(水)~12月22日(木) 予定 プレイハウス
作:W・シェイクスピア 演出:藤田貴大(マームとジブシー)

「オフエリアと影の一座」

11月30日(水)~12月4日(日) プレイハウス
作:ミヒャエル・エンデ 演出:小野寺修二
チケット発売:9月10日(土) 予定

遊機軸オフィス「ア・ラ・カルト」(仮)

12月下旬 シアターイースト